

## アジア GEO Grid イニシアチブ

実施機関：独立行政法人 産業技術総合研究所（研究代表者：田中 良夫）

実施期間：平成 22 年度～平成 24 年度

### プロジェクトの概要

本プロジェクトにおいては、アジア地域におけるデータ共有の強化を目指し、グリッド技術を用いてアジア諸国が保有するデータベースや計算機資源を共有するGEO Gridをアジア地域に展開し、地上観測や衛星観測など、アジア諸国が保有する多種の観測データを集約、統一したプロトコルで処理、統合し、これを利用して新たな付加価値を持った情報を生み出すための情報処理基盤を確立する。我が国がリーダーシップを発揮して、観測研究を行う各分野と情報技術との分野融合を図ると共に、現在は人的ネットワークと人手を介したデータ流通のみからなる分野別、国別の観測的研究のコミュニティを、GEO Gridによりデータ集積・共有・利用ネットワークを介した分野・地域横断的なものとする。これにより、環境問題などのアジア地域に共通の問題に対し、アジア諸国の研究者や政策決定者が長期にわたるデータ取得を維持し総合的なデータ利用に共同で取り組む土台を確立し、問題の解決を促進する。

### (1) 評価結果

総合評価	目標達成度	成果	計画・手法の妥当性	実施期間終了後における取組の継続性・発展性
A	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

### (2) 評価コメント

本プロジェクトにおいて、5つ以上の地上センサデータベースと3つ以上の衛星データベースをつなぐ GEO Grid 基盤をアジア地域に配備してその機能を確認し、IT 基盤と環境観測コミュニティ Asia Flux などとの連携を構築し得たことは、これをモデルに、多種多様な観測データを、容易に統合利用するシステムが用意されたことを意味するものとして評価できる。今後は、用途拡大、さらに商業利用等の応用展開について、その発展を期待する。

・**目標達成度**：所期の計画に沿い、GEO Grid 基盤をアジア地域に配備して同基盤のデータ統合に向けた有効性を確認し、環境モニタリングアプリケーションの実用性を検証したことは評価できる。さらに、カメラ画像を統合利用するアプリケーションを開発したこと、カメラ画像データベースの総合利用可能なデータソースなどを組み込んだことなどにより、アジア地域における重要な課題である環境保全や災害予防に向けて、グリッド技術を用いた情報処理基盤の確立に本プロジェクトは大きく貢献し、所期の目標を達成したものと評価できる。

・**研究成果**：アジア地域におけるデータ共有の強化が実現し、GEO Grid を積極的に展開することができるとともに、有効性の検証も計画通り進められ、先進的技術の改良・普及、あるいは国際標準の創出などにつながる成果が得られていることは評価できる。また、プロジェクト管

理のための会議や、研究成果発表のための国際研究会議等国内外の研究者が直接対話する機会を設けるなど、海外参画機関と適切なコミュニケーションが図られており、形成された科学技術コミュニティは、科学技術外交推進等への政策的波及効果が期待できる。さらに、地上と衛星のデータベースの統合利用基盤構築を実施できたことは、今後につながる成果であり、関連分野への科学的・技術的波及効果が期待できる。

・**計画・手法の妥当性**：様々な他の団体やネットワークと連携し、構築した Geo Grid 基盤を普及・応用させる姿勢が明確であり、計画にいたる準備が良好であったと評価できる。また、研究目的・内容にかんがみて、プロジェクト推進のためのマネジメントが適切であった点も評価できる。

・**実施期間終了後における取組の継続性・発展性**：本プロジェクト終了後もこれまでの取組を発展させる明確な研究・交流ビジョンがあり、引き続きネットワークを維持し、研究開発とその普及に向けた取組が継続される状況にあり、分野横断的なコミュニティを構築し、共同研究を継続、発展させる体制を確立しようとしている点でも評価できる。